

2022年度
J-STAGEジャーナルコンサルティング
～ミニセミナー～



科学技術振興機構

本日の内容

1. J-STAGE登載誌の質向上に向けた取り組みと
ジャーナルコンサルティングについて
2. オープンアクセスの概要
～質疑応答～
3. CCライセンスの概要と設定
～質疑応答・休憩～
4. DOAJの概要と収録申請
～質疑応答～
5. ジャーナルの評価と課題への取り組み
～質疑応答～

本日の内容

1. J-STAGE登載誌の質向上に向けた取り組みと ジャーナルコンサルティングについて

2. オープンアクセスの概要

～質疑応答～

3. CCライセンスの概要と設定

～質疑応答・休憩～

4. DOAJの概要と収録申請

～質疑応答～

5. ジャーナルの評価と課題への取り組み

～質疑応答～

J-STAGE登載誌の質向上に向けた取り組み

(ジャーナルの質向上にあたっての課題)

- 投稿数の増加
- 閲覧数・引用数の増加
- 編集体制の強化
- Webサイトの改善
- マーケティング
- オープンアクセス 等



J-STAGE事業では、電子ジャーナルの発信・流通を推進するプラットフォーム整備に加えて、ジャーナル発行母体である学協会との連携を強化し、登載誌の質向上に取り組む

これまでの取り組み

- J-STAGEセミナー(情報提供/啓発活動)
- 満足度調査、フィードバックによる新プラットフォームの開発およびシステム改修
- オープンアクセス、CCライセンスマークの表示機能等
- オープンアクセスガイドの提供
- DOAJ収録支援(申請ガイドの日本語化等)
- **ジャーナルコンサルティング**

ジャーナルコンサルティングの実施

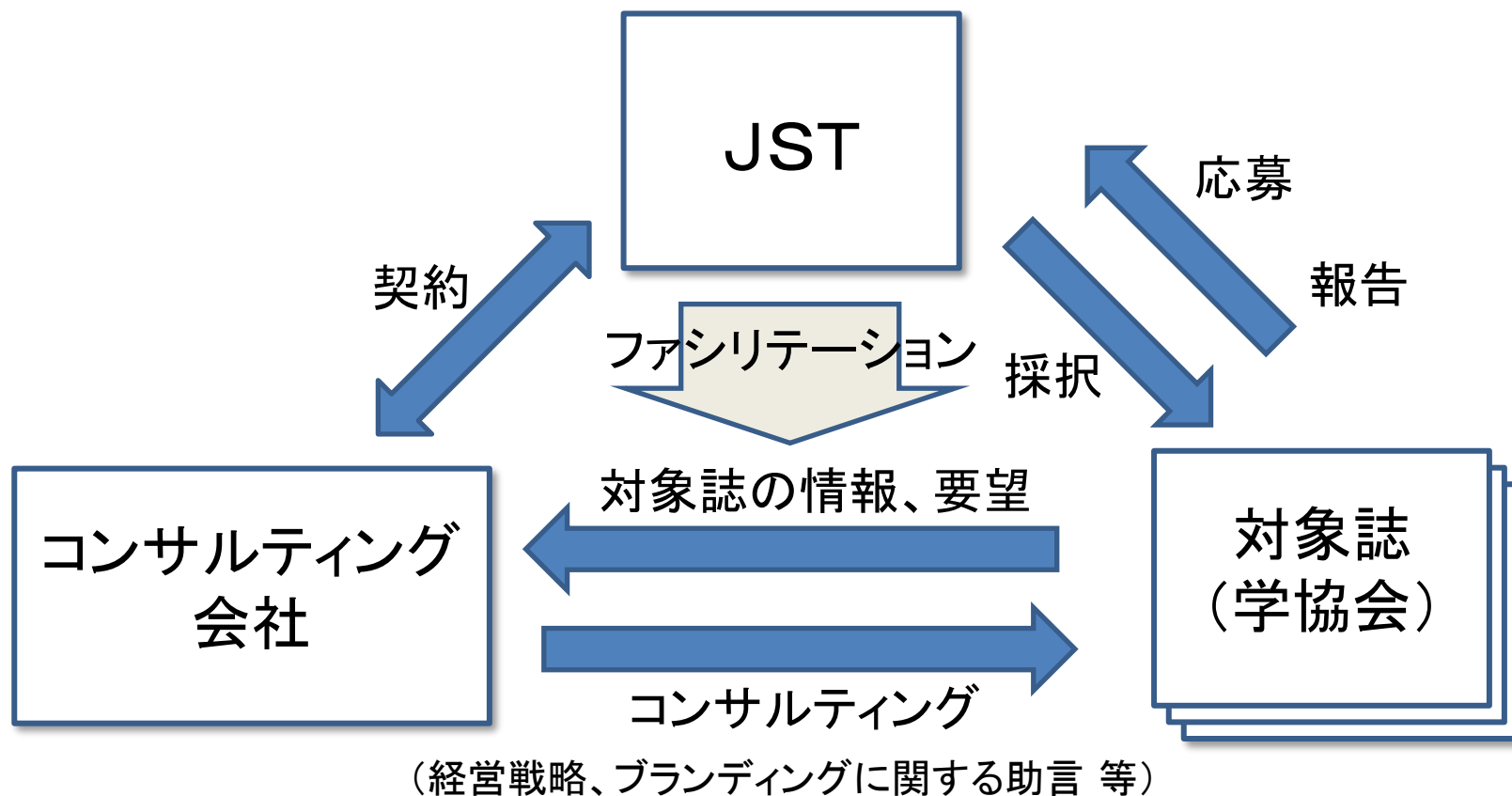
内容

JST及びJSTが委託する海外のコンサルティング会社により、J-STAGE登載誌の質向上を目指す利用機関に対して、個別事情を踏まえたコンサルティングを行い、ジャーナルの質向上のための課題解決に向けた協力を行う。

テーマ

- オープンアクセス
ドキュメント整備、APC試算、CCライセンス導入、DOAJ収載 等
- 国際発信力強化
投稿数/閲覧数の増加、データベース等への収録、編集委員会の国際化、Webサイトの充実、マーケティング 等
- その他
JSTと協議の上で決定した事項

ジャーナルコンサルティング実施体制



ジャーナルコンサルティングの進め方

実施期間(例年)

5月頃:参加募集 → 6月頃:採択 → 6月～翌年3月:実施

ステップ

- ① コンサルタントによる対象誌の現状分析と評価
- ② ①に基づいた学協会・コンサルタント間の協議により、対象誌の質向上を目指した実施内容を優先順位付け
- ③ ②に基づく実施内容の確定と実施
- ④ 本コンサルティング終了後の継続的な効果をJSTが把握・分析(次年度以降)

ジャーナルコンサルティングの実施事例

(1) 経営戦略に関する支援

- 発行機関及び対象誌の現状分析
- APC (Article Processing Charge) の導入に向けた試算
- Editorial Boardの国際化に関する助言
- 新規ジャーナルの創刊に向けた助言

(2) ブランディングに関する支援

- Aims and Scopeや Instruction to Authors等のドキュメント整備
- CCライセンスの導入に向けた助言
- Journal Impact Factor取得に向けた助言
- PubMed収載に向けた助言
- DOAJ(一定基準以上のオープンアクセス誌のリスト)収載に向けた助言 (2020年度の主テーマ)

ジャーナルコンサルティングの実施事例

(3) 2021年度・2022年度のジャーナルコンサルティング

改善に意欲のあるジャーナルが、その改善段階に応じて多様な支援を受けられる形で実施

ジャーナル診断の結果より、以下のコースから選択可能

- 投稿規程の改定(DOAJに準拠したOAへの転換)
- 運営戦略と分析を伴ったOAへの転換
- 新規OAジャーナルの創刊
- データポリシーの評価
- 編集委員会の発展(国際化)
- ジャーナルインパクトファクター(JIF)取得要件への準拠
- PMC掲載要件への準拠
- 投稿数の増加
- OA誌のマーケティング計画(2022年度)
- 前年度フォローアップ(2022年度)

ジャーナルコンサルティングの対象誌（学協会）

パイロットプロジェクト

- ◆ 2017年度
 - ・ 英文誌 2誌
- ◆ 2018年度
 - ・ 英文誌 4誌

本プロジェクト

- ◆ 2019年度
 - ・ 英文誌 5誌
- ◆ 2020年度
 - ・ 英文誌 15誌・和文誌 5誌
- ◆ 2021年度
 - ・ 英文誌 13誌・和文誌 8誌
- ◆ 2022年度
 - ・ 英文誌 16誌・和文誌 2誌

ジャーナルコンサルティング採択誌（2022年度）

英文誌

- Journal of Transcatheter Valve Therapies（日本経カテーテル心臓弁治療学会）
- Chemical and Pharmaceutical Bulletin（日本薬学会）
- Tokyo Women's Medical University Journal（東京女子医科大学学会）
- Engineering in Agriculture, Environment and Food（Asian Agricultural and Biological Engineering Association）
- e-Journal of Surface Science and Nanotechnology（日本表面真空学会）
- Metallomics Research（日本微量元素学会）
- Southeast Asian Studies（京都大学東南アジア地域研究研究所）
- Magnetic Resonance in Medical Sciences（日本磁気共鳴医学会）
- JFPS International Journal of Fluid Power System（日本フルードパワーシステム学会）
- Physical Therapy Research（日本理学療法学会連合）
- Mass Spectrometry（日本質量分析学会）
- Advanced Biomedical Engineering（日本生体医工学会）
- Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery（ATCS編集委員会）
- JNET Journal of Neuroendovascular Therapy（日本脳神経血管内治療学会）
- The Horticulture Journal（園芸学会）
- Breeding Science（日本育種学会）

和文誌

- 学術情報処理研究（大学ICT推進協議会）
- 組織学会大会論文集（組織学会）

ジャーナルコンサルティング ミニセミナー

目的

- ジャーナルコンサルティングを通じて得られた、ジャーナルの質向上に関する基礎的なノウハウの提供

実施内容

- オープンアクセスやCCライセンス等の概要・事例紹介
- DOAJ収録申請の紹介

本日の内容

1. J-STAGE登載誌の質向上に向けた取り組みと
ジャーナルコンサルティングについて

2. オープンアクセスの概要

～質疑応答～

3. CCライセンスの概要と設定
～質疑応答・休憩～

4. DOAJの概要と収録申請
～質疑応答～

5. ジャーナルの評価と課題への取り組み
～質疑応答～

オープンアクセスの種類

- ① **グリーンOA (セルフアーカイブ):**
著者が機関リポジトリなどで著者最終稿 (Accepted Manuscript: AM
あるいは Version of Record: VoR) を無料公開する。多くはライセンス
情報なし
- ② **ゴールドOA:**
著者が支払うAPC (掲載料) で出版コストがまかなわれるオープンアク
セス誌で掲載論文を無料公開する。ライセンス情報付き
- ③ **ダイヤモンドOA (プラチナOA):**
購読料も投稿料・掲載料も不要で、大学・研究機関など刊行元の資
金あるいは助成団体などの支援で出版コストがまかなわれるオープ
ンアクセス誌で掲載論文を無料公開する。ライセンス情報付き

※ ライセンス情報のないフリーアクセス誌で掲載論文を無料公開す
ることを、**ブロンズOA**とよぶことがある

オープンアクセスに関連して

ライセンス:

コンテンツを二次利用する際の条件などを示す、CCライセンスなど

ハイブリッドOA誌:

ジャーナル自体は有料の購読誌だが、著者が APC を支払った論文のみを無料公開するジャーナル

APC (Article Processing Charge):

論文掲載料。ゴールドOA 誌およびハイブリッドOA誌では、著者はオープンアクセスでの論文公開のためAPCを支払う必要がある

最近では、とくに海外のトップジャーナルにおいて、APCの高騰が大きな問題となっている

エンバーゴ:

出版の直後は購読者あるいは学会員など一部のみ閲覧可能として、出版から一定期間(6ヶ月~2年)が経過したのち無料公開する

オープンアクセスの定義

ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ (BOAI、2002)

「公衆に開かれたインターネット上において、無料で利用可能であり、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、論文フルテキストへのリンク、インデクシングのためのクロールリング、ソフトウェアヘデータとして取り込み、その他合法的目的のための利用が(中略)財政的、法的または技術的な障壁なしに誰もが許可されること」

(出典: <https://www.budapestopenaccessinitiative.org/boai-10-translations/japanese-translation-1>)

科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) 利用規約

第2条

(4)「オープンアクセス」とは、インターネット上に論文等を無料公開し、二次的利用の範囲に関するライセンス情報を明記することで、誰もが障壁なくアクセスできることをいいます。

オープンアクセスといっても、さまざまな種類、さまざまな定義がある

J-STAGE 利用規約

科学技術情報発信・流通総合システム利用規約

(本サービス)

第1条

1. 機構は、本サービスとして、電子化された科学技術刊行物のJ-STAGEへの登載、国内外の電子ジャーナルサイト等との相互リンクの構築、及びこれらに関連・付随するサービスを提供することにより、我が国の科学技術刊行物の国内外への情報発信及び流通を促進し、また**オープンアクセスを推進すること**(以下「本サービス目的」といいます。)を**目指します**。

(定義)

第2条

(4)「オープンアクセス」とは、インターネット上に論文等を無料公開し、二次的利用の範囲に関する**ライセンス情報を明記**することで、誰もが障壁なくアクセスできることをいいます。

ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ(BOAI)では、以下の通り定義しています。

「公衆に開かれたインターネット上において、無料で利用可能であり、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、論文フルテキストへのリンク、インデクシングのためのクローリング、ソフトウェアヘデータとして取り込み、その他合法的目的のための利用が(中略)財政的、法的または技術的な障壁なしに誰もが許可されること」

(出典: <https://www.budapestopenaccessinitiative.org/boai-10-translations/japanese-translation-1>)

(利用申請)

第3条

2. (4)**オープンアクセスの実現に積極的に取り組めること**

※「ライセンス情報」とは、科学技術刊行物の記事に付されている利用条件を表す情報(**クリエイティブ・コモンズ・ライセンス等**)をいいます。[定義 第2条(11)]

J-STAGEにおけるオープンアクセス

J-STAGEでは、利用規約に書かれているとおり、

インターネット上で無料でアクセスできる

(フリーアクセス)

+

二次利用の範囲・条件が明示されている

(CCライセンスなど)

を、オープンアクセスとしている

(認証付きはもちろん、フリーアクセスも、オープンアクセスではない)

オープンアクセス誌

すべての論文が、ゴールドOA(ダイヤモンドOA)として、(エンバーゴなしに)出版と同時に公開されるジャーナル

→ 後述する DOAJ の定義も、これと同一

J-STAGE登載誌のオープンアクセス状況

	ジャーナル数	率
オープンアクセスジャーナル	214	6%
フリーアクセスジャーナル	2,943	81%
認証ジャーナル	475	13%
合計	3,632	100%

(2022年9月27日時点)

J-STAGEでは、冊子体の発行からJ-STAGE公開までの期間を「エンバーゴ期間」、全文PDFをフリーで公開せず認証を設定している期間を「認証期間」と定義しており、

- 1) エンバーゴ期間: 24か月以内
- 2) 認証期間: 24か月以内(推奨12か月以内)

ただし、1)+2)の合計は24か月以内とする としている。

そのため、大多数をしめるフリーアクセス誌でも、そもそも冊子体の発行から2年未満の巻号をJ-STAGEから公開してないジャーナルが多い

オープンアクセスのメリット

- 無料で閲覧できることから、多くの読者にみてもらえる
- フリーアクセスより広く合法的に利用される
 - ・ 利用条件が明確であるため、著作権者の意に沿わない二次利用が起こりにくい
- 論文の閲覧数、ダウンロード数、被引用数などが増加する
 - ・ ライセンスの条件内での二次利用が増え、論文の流通が促進される
(参考:スライド22)
- DOAJに申請・収録されることで信頼度・評判が高まる
- 二次利用(複写・転載・翻訳等)に関する対応が軽減される
- **オープンアクセス義務づけが広がりつつある**
 - ・ 公的資金の支援を受けた研究成果に対して、オープンアクセスでの公開義務づけが近年さらに広がっている(参考:スライド23・24)

オープンアクセス論文の流通力に関する報告

2018年にSpringer Nature社のハイブリッドOA誌1,262誌に掲載された60,567論文における、OA論文(7,660論文)と非OA論文の影響について分析した(2021年10月27日 発表)

OA論文は非OA論文と比較して、

■被引用数: 1.64倍

■Altmetric Attention Score: 4.91倍

※SNSなどWeb上での言及についてスコア化

■ダウンロード数: 6.02倍

(出典 <https://www.springernature.com/gp/open-research/journals-books/journals/going-for-gold-reach-and-impact>)

各国・地域のオープンアクセスに関する方針

■ 米国

- ・大統領府科学技術政策局(OSTP)指令(2013年2月)
 - 公的助成研究成果へのアクセス拡大を図るために連邦行政部・機関長へ宛てたメモランダムを公表

■ 欧州

- ・助成機関や多数の政府機関レベルでオープンアクセス化を推進
- ・全体的にゴールドOAを支持
- ・欧州の研究助成機関から構成されるcOAlition Sが声明:「Plan S」
 - 2021年1月以降にcOAlition S参加機関から支援を受けた研究成果は、即時オープンアクセス公開が義務づけられる

■ 日本

- ・助成機関はオープンアクセス化(グリーンOAまたはゴールドOA)を推進
- ・日本学術振興会:「独立行政法人日本学術振興会の事業における論文のOA化に関する実施方針」
- ・科学技術振興機構:「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」(2017)

最新の状況

■ 米国

大統領府科学技術政策局 (OSTP) パブリックアクセスポリシーの更新に関する
メモランダム (2022年8月)

- 公的助成研究成果 (研究論文およびその研究データ) は、**エンバーゴ期間を設けず即時オープンアクセスで公開**
- 連邦政府機関に対し、**2025年12月31日までにパブリックアクセスポリシーを改訂・施行**することを求める

■ 日本

科学技術振興機構「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに
関するJSTの基本方針」改訂 (2022年4月)

- 研究成果論文は**オープンアクセス化することを原則**とする。特に、査読済の論文については、原則として**出版後12ヶ月以内にオープンアクセス化**する
- 研究データのうち、研究成果論文の**エビデンスとなる研究データは原則として公開**とする

転換ジャーナルと Read & Publish 契約

cOAlition S の「Plan S」では、即時オープンアクセス公開をもとめているが、ハイブリッドOA誌からのOA公開は、購読料とAPCの二重支払いであって認められないとしている

その対応として、

- ・転換ジャーナル(Transformative Journals)

完全オープンアクセス誌への移行を約束した購読誌/ハイブリッドOA誌
その条件として、OAコンテンツの割合を徐々に増加させること
購読料収入とAPC支払いを相殺すること、が求められている。

- ・Read & Publish 契約 (Transformative Agreement)

ジャーナル購読とOAによる論文出版をひとつの契約にまとめる
大学・図書館(コンソーシアム)は出版社に購読料を支払う
コンソーシアムに所属する研究者はAPCなしにOAで論文を出版できる

日本でのRead & Publish契約

2022年2月8日 発表

東北大学、東京工業大学、総合研究大学院大学(総研大)、東京理科大学の4大学とWileyは、2022年1月31日付にて、2022年4月からの「転換契約」を見据えた新たな覚書に署名した。Wileyが出版する全ジャーナルの閲覧に加えて、4大学に所属する研究者の論文をWileyのハイブリッド誌 約1,400タイトルでOA出版するための権利も含まれる。

2022年11月21日 発表

東北大学、東京大学、東京工業大学、横浜国立大学、福井大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、早稲田大学、東京理科大学の10大学とシュプリンガーネイチャーは、2022年11月7日、論文のオープンアクセス出版の促進を目的として、2023年1月からジャーナルの「転換契約」に係るパイロットプロジェクトを進めるための合意書に署名した。シュプリンガーネイチャーはシュプリンガーの2,000誌以上のジャーナルにおいて年間で合計約900報のOA出版枠を提供する。

APCを導入するにあたって

オープンアクセス化の財源はAPCだけとは限らない

- 著者が負担するAPCのほか、各種助成金、学会の会費などで、出版コスト(の一部)をまかなうことが可能

ジャーナルにAPCを導入する際の検討事項

- 金額設定・試算
 - 競合誌との競争力があるか
 - ジャーナルの財政基盤を維持できるか
- 冊子体を(発行している場合)維持するかどうか
- 出版コスト(の一部)を各種助成金でまかっている場合、助成終了後の継続性を念頭においたAPCの検討が必要

オープンアクセスの宣言（明示）

J-STAGEのジャーナルサイトで明示

オープンアクセス誌

収録数 2,679本
(更新日 2020/09/30)

Online ISSN : 1349-9092
Print ISSN : 0917-5040
ISSN-L : 0917-5040

3.691
2019 Journal Impact Factor (JIF)

2020年 30巻 9号

Meta-regression Analysis of Sex- and Birth Year-Specific Prevalence of HBsAg and Anti-HCV Among Un-diagnosed Japanese: Data From the First-time Blood Donors, Periodical Health Checkup, and the Comprehensive Health Checkup With Lifestyle Education (Ningen Dock)

Tomoyuki Akita, Junko Tanaka, Masahiro Satake, Yingsong Lin, Takashi Wada, Kiminori Kato, Manami Inoue

オープンアクセス記事

Professional Commitment to Ethical Discussion in the COVID-19 Pandemic

Kenji Matsui, Keiichiro Yamamoto, Yusuke Inoue

2020年 30巻 9号 p. 375-376

発行日: 2020/09/05
公開日: 2020/09/05
[早期公開] 公開日: 2020/07/04

DOI: <https://doi.org/10.2188/jea.JE200278>

学会ジャーナルサイトのAims & Scopeで明示

Aims & Scope

Cell Structure and Function is a fully peer-reviewed, fully Open Access journal. As the official English-language journal of the Japan Society for Cell Biology, it is published continuously online and biannually in print.

Cell Structure and Function publishes important, or.....

(出典: 日本細胞生物学会「Cell Structure and Function」 “Aims & Scope” <http://www.jscb.gr.jp/csf/en/aims-scope/>)

本日の内容

1. J-STAGE掲載誌の質向上に向けた取り組みと
ジャーナルコンサルティングについて

2. オープンアクセスの概要
～質疑応答～

3. CCライセンスの概要と設定
～質疑応答・休憩～

4. DOAJの概要と収録申請
～質疑応答～

5. ジャーナルの評価と課題への取り組み
～質疑応答～

著作権とは

著作物: 作者の思想や感情が表現された文芸・学術・美術・音楽など、学術論文もこれに含まれる

著作者: 著作物を創作した人、論文の著者

著作権: 著作者がもつ、著作物がどう使われるかを定めることのできる権利

著作財産権(狭義の著作権)と著作者人格権に分類される

複製権、譲渡権、貸与権、翻案権、公衆送信権 などからなる著作財産権は、譲渡が可能で、論文の著作権者が著者から学会に移転するなど、著作権保持者は著作者から他者に変わりうる

注:「引用」は著作権法に定められているもので、一定の条件を満たすことにより、著作権者の許諾を得ることなく行える

クリエイティブ・コモンズ(CC)ライセンスとは

- インターネット時代のための新しい著作権ルール
- 著作権者が「この条件を守れば著作物を自由に使って構いません」という意思表示をするためのツール
- 著作権者は著作権を保持したまま著作物を自由に流通させることができ、利用者はライセンス条件の範囲内で転載・再配布や改変などができる
- 既存の著作権制度 (All Rights Reserved) のなかで著作権者の権利が守られながら、利用者が著作物を自由に扱う領域 (Some Rights Reserved) を確保できる



All Rights Reserved

Some Rights Reserved













No Rights Reserved

(出典 : <http://creativecommons.jp/licenses/>)

- CCライセンスは、学術雑誌のオープンアクセス化におけるライセンスとして、世界的にデファクト・スタンダードとなっている

CCライセンスの種類

4種類のライセンス要素を組み合わせ、6種類の異なる条件のライセンスを構成

	変更利用→	許可する	許可するが、 同じライセンスを 表示すること	許可しない
営利目的の利用↓	クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 	 表示 作品のクレジットを表示すること	 継承 元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開すること	 変更禁止 元の作品を変更しないこと
許可する	 表示 作品のクレジットを表示すること	 CC BY 表示	 CC BY-SA 表示—継承	 CC BY-ND 表示—変更禁止
許可しない	 非営利 営利目的での利用をしないこと	 CC BY-NC 表示—非営利	 CC BY-NC-SA 表示—非営利—継承	 CC BY-NC-ND 表示—非営利—変更禁止

クリエイティブ・コモンズ作者のクレジットを表記することを求める CC BY をベースとして、非営利 (NC)、継承 (SA)、変更禁止 (ND) を組み合わせた 6 種類のライセンスが存在する。

(出典: 情報管理 2015 vol.58 no.5 p.344.「日本におけるクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの実際」)

CC BY: 原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示することを主な条件とし、変更はもちろん、営利目的での二次利用も許可される最も自由度が高いCCライセンス

CC BY-SA: 原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示し、変更した場合には元の作品と同じCCライセンス(このライセンス)で公開することを主な条件に、営利目的での二次利用も許可されるCCライセンス

CC BY-ND: 原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示し、かつ元の作品を変更しないことを主な条件に、営利目的での利用(転載、コピー、共有)が行えるCCライセンス。

CC BY-NC: 原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示し、かつ非営利目的であることを主な条件に、変更したり再配布したりすることができるCCライセンス。

CC BY-NC-SA: 原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示し、かつ非営利目的に限り、また変更を行った際には元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開することを主な条件に、変更したり再配布したりすることができるCCライセンス。

CC BY-NC-ND: 原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示し、かつ非営利目的であり、そして元の作品を変更しないことを主な条件に、作品を自由に再配布できるCCライセンス。

(出典: <https://creativecommons.jp/licenses/>)

CCライセンスの採用に際して

■ 選定前の確認事項…

ジャーナルの事情に合ったCCライセンスを吟味

- 著作権収入(複製使用料、転載許諾料等)を得ているか
NCを含むライセンスは、営利目的の場合に事前許諾が必要なため、その結果として転載許諾料を請求することは可能
- 著作権管理団体と契約しているか
NCを含まないライセンスを全記事に適用する→著作権処理は不要
- 助成機関のCCライセンスの適用方針に適合するか
Plan Sは基本的にCC BYもしくはCC BY-SAでのOA化を求めている
- 学会メンバー、著者の合意を得られるか

■ CCライセンスを付与する際のポイント

- CCライセンス取得にCCジャパンへの許可申請や届出は不要
- 記事毎に異なるCCライセンスの付与が可能
- 一旦付与したCCライセンスの変更・取消は不可

CCライセンスはどこに表示すべきか

■ 投稿規程

■ J-STAGE Webサイト上

- 書誌ページ

※CCライセンス設定方法の詳細は、【J-STAGE CCライセンス設定手順書】をご参照ください。

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_creativecommons_licenses_SettingManual.pdf

■ 記事本文PDF

投稿規程のCCライセンス表示

Author Instructions

Cell Structure and Function supplies comprehensive and clear Instructions to Authors, which offer guidance on article types and format, journal policies, and how to submit manuscripts.

These Instructions to Authors may also be downloaded as a PDF.

Manuscript Submission
Manuscript Types
Manuscript Preparation
Journal Policies
Open Access
Copyright

Quick links

Read articles
About CSF
Aims & Scope
Submit
Author Instructions
Editorial Board

(中略)

CCライセンスを表示(CC BY)

The journal does not charge a submission fee.

License to Publish

Authors are required to sign a License to Publish to grant the Japan Society for Cell Biology permission to reproduce the work in *Cell Structure and Function* under a Creative Commons license (see below).

Creative Commons licenses

Open Access publications in *Cell Structure and Function* are published under the Creative Commons Attribution (CC BY) 4.0 International license. For more information about this license, see the [Open Access FAQs page](#).

COPYRIGHT

Copyright of articles printed in *Cell Structure and Function* belongs to the Japan Society for Cell Biology for published articles submitted before 1 October 2016 and to the Authors for published articles submitted on or after 1 October 2016. More information about the journal's Open Access policy is available on the [Open Access FAQs page](#).

Last updated 14 November 2018

出典: 日本細胞生物学会「Cell Structure and Function」誌の投稿規程 <http://www.jscb.gr.jp/csf/en/instructions-to-authors/>

J-STAGE書誌ページのCCライセンス表示

共有する



5) Health at a Glance 2011: OECD Indicators. www.oecd.org/els/health-systems/49105858.pdf

もっと見る



著者関連情報

© 2018 The Juntendo Medical Society. This is an open access article distributed under the terms of Creative Commons Attribution License (CC BY), which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided the original source is properly credited.



This article is licensed under a Creative Commons [Attribution 4.0 International] license.
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>

論文PDFのCCライセンス表示

Mini Reviews
Juntendo Medical Journal
2019, 65(12), 194-202

Surgery, Perioperative Treatment and Prognostic Factors
Based on Genetic and Epigenetic Alterations in Colorectal Cancer

KIICHI SUGIMOTO*, KAZUHIRO SAKAMOTO*

*Department of Colorectal Surgery, Juntendo University Faculty of Medicine, Tokyo, Japan

In this review, we summarize the current status and provide future perspectives on surgery, perioperative treatment, and prognostic factors based on genetic and epigenetic alterations in colorectal cancer (CRC).

Surgery is still the mainstay of treatment for CRC for definitive management and potential cure at an early stage, and effective palliation in advanced cases. Local control and survival have significantly improved in surgical cases because the indication for surgery and perioperative treatment has changed. Based on the results of some randomized control trials, laparoscopic surgery is now considered to be a standard treatment option for advanced colon cancer. The most recent development is robotic surgery using the da Vinci® surgical system, which consists of a patient table cart, a surgeon console, and a vision system. This system provides 3-dimensional high definition (3D HD) vision of a clear and magnified operative view and converts the surgeon's hand movements into smaller, more precise movements of tiny instruments inside the body. Thus, da Vinci® technology allows surgeons to perform complex procedures through a few small wounds, similarly to conventional laparoscopic surgery.

Genetic effects such as mutations and chromosomal instability involve changes in the DNA sequence of a gene, whereas epigenetics refers to potentially heritable changes that are linked to DNA methylation or histone methylation, but do not involve changes in the DNA sequence. Genetic and epigenetic changes are linked with each other and can lead to cancer development and progression. Many recent studies have examined the relationships of these changes to diagnosis, treatment and prevention of CRC.

Key words: colorectal cancer (CRC), surgery, perioperative treatment, genetic alteration, epigenetic alteration

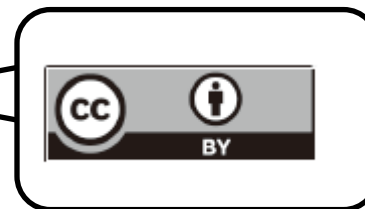
Introduction provide future perspectives on surgery, perioperative treatment, and prognostic factors based on

Significance of perioperative treatment (CRC) outcomes prognosis alteration with each and prognostic factors further review.

Corresponding author: Kiichi Sugimoto
Department of Colorectal Surgery, Juntendo University Faculty of Medicine
2-1-1 Hongo Bunkyo-ku, Tokyo 113-8421, Japan
TEL: +81-3-3813-5111 E-mail: kisu@juntendo.ac.jp
DOI: 10.14789/jmj.2019.65.JMJ19-LN02

Copyright © 2019 The Juntendo Medical Society. This is an open access article distributed under the terms of Creative Commons Attribution License (CC BY), which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided the original source is properly credited.
doi: 10.14789/jmj.2019.65.JMJ19-LN02

194



Copyright © 2019 The Juntendo Medical Society. This is an open access article distributed under the terms of Creative Commons Attribution License (CC BY), which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided the original source is properly credited.
doi: 10.14789/jmj.2019.65.JMJ19-LN02

Copyright © 2019 The Juntendo Medical Society. This is an open access article distributed under the terms of Creative Commons Attribution License (CC BY), which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided the original source is properly credited.
doi: 10.14789/jmj.2019.65.JMJ19-LN02

CCライセンスと著作権の帰属について

☆CCライセンスを決めるのは著作権保持者

- 1) 学会が著作権を保持する場合→学会がCCライセンスを決定し、著者が承諾
 - ・ 著者は「著作権譲渡合意書(Copyright Transfer Agreement)」等で著作権を学会へ譲渡する
- 2) 著者が著作権を保持する場合→学会がCCライセンスを提案し、著者が決定
 - ・ 著者は「License to Publish」等で、学会に出版、複写、再配布、改変等を許諾する

いずれのスキームが優れているというものではないと考えてはいるが、近年、とくに欧州では、オープンアクセスにおいて著作権は著者が保持しライセンスはCC BY、という潮流が強くなっている

【参考】J-STAGEオープンアクセス誌における著作権帰属の状況(2022年10月判明分)

CCライセンス	著者	学会
CC BY(62誌)	33誌	29誌
CC BY-SA(3誌)		3誌
CC BY-ND(4誌)		4誌
CC BY-NC(18誌)	2誌	16誌
CC BY-NC-ND(93誌)	3誌	90誌
CC BY-NC-SA(16誌)		16誌
複数ライセンス付与(18誌)	5誌	13誌
合計(214誌)	43誌(20%)	171誌(80%)

CCライセンスと同一性保持権

■日本の著作権法：著作物の改変に関する2つの権利が存在

1) 同一性保持権(著作者人格権の一つ:譲渡不可)

■著作物および題号につき著作者の意に反して変更、切除その他の改変を禁止することが出来る権利(著作権法20条第1項)

2) 翻案権(財産権:譲渡可能)

■著作物を翻訳、編曲、変形、脚色等をする権利(著作権法27条)

■「同一性保持権」と「CCライセンスによる改変許諾」は競合する？

■CCライセンスは著作者人格権の規程がない米国で発案された

■日本の法律の下では、著者から学会へ著作権が譲渡されても、同一性保持権は著者に残る...著者の意に反する改変はできない？

■CCライセンスのリーガルコードでは、CCライセンス設定に際して著者が著作者人格権を行使しないことが規定されている(クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 パブリック・ライセンス 第2条b その他の権利: <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>)

CCライセンス表示（CC BY）リーガルコード

クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 パブリック・ライセンス 第2条b その他の権利

6. 支持表明がないこと 許諾者または第3条3(a)(1)(A)(i)に定められている許諾者以外のクレジット表示の対象として指定されている者が、あなたまたはライセンス対象物のあなたによる利用について、関連している、援助・支持している、あるいは正式な地位を付与している、と主張または示唆することを本パブリック・ライセンスは許諾しておらず、またはそのように解釈されてはなりません。

b. その他の権利

1. 同一性保持の権利のような著作者人格権は、本パブリック・ライセンスのもとではライセンスされません。パブリシティ権、プライバシー権、および/または他の類似した人格権も同様です。ただし、可能なかぎり、許諾者は、あなたがライセンスされた権利を行使するために必要とされる範囲内で、また、その範囲内でのみ、許諾者の保持する、いかなるそのような権利を放棄し、および/または主張しないことに同意します。
2. 特許権および商標権は本パブリック・ライセンスのもとではライセンスされません。
3. 可能なかぎり、許諾者は、ライセンスされた権利の行使について、直接か、または任意のもしくは放棄可能な法定のもしくは強制的なライセンスに関する仕組みに基づく集中管理団体を介するかを問わず、あなたからライセンス料を得るいかなる権利も放棄します。その他一切の場合において、許諾者はそのようなライセンス料を得るいかなる権利も明確に保持します。

学会が著作権を保持する場合のCCライセンス付与にかかる権利処理

- 学会が論文にCCライセンスを付与できる
- 改変禁止(ND)を含まないCCライセンスを付与する場合の対応

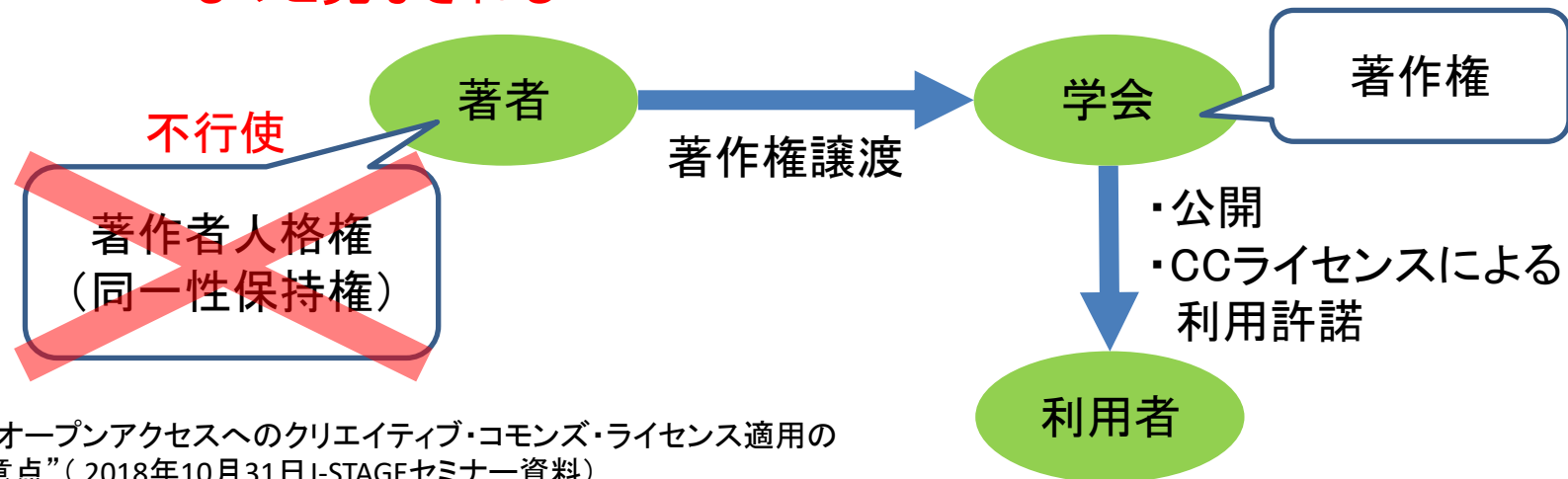
a. 著作権規程等において以下を確認する

- 翻案権が学会に譲渡されている
- 二次的著作物の利用に関する原著作者の権利※が学会に譲渡されている
- 著作者人格権(同一性保持権)の不行使が宣言されている

※著作権法28条で規定

b. CCライセンス付与について著者の承諾を得る

→リーガルコードによって著作者人格権の不行使に同意したものと見なされる



小林 心“オープンアクセスへのクリエイティブ・コモンズ・ライセンス適用の意義と留意点”(2018年10月31日J-STAGEセミナー資料)

投稿規程における著作権帰属の明示例

Author Instructions

Cell Structure and Function supplies comprehensive and clear Instructions to Authors, which offer guidance on article types and format, journal policies, and how to submit manuscripts.

These Instructions to Authors may also be downloaded as a PDF.

Manuscript Submission
Manuscript Types
Manuscript Preparation
Journal Policies
Open Access
Copyright

Quick links

Read articles
About CSF
Aims & Scope
Submit
Author Instructions
Editorial Board

(中略)

The journal does not charge a submission fee.

License to Publish

Authors are required to sign a License to Publish to grant the Japan Society for Cell Biology permission to reproduce the work in Cell Structure and Function under a Creative Commons license (see below).

Creative Commons licenses

Open Access publications in Cell Structure and Function are published under the Creative Commons Attribution (CC BY) 4.0 International license. For more information about this license, see the Open Access FAQs page.

COPYRIGHT

Copyright of articles printed in Cell Structure and Function belongs to the Japan Society for Cell Biology for published articles submitted before 1 October 2016 and to the Authors for published articles submitted on or after 1 October 2016. More information about the journal's Open Access policy is available on the Open Access FAQs page.

Last updated 14 November 2018

著作権の帰属: 記事の投稿日が
- 2016年9月30日以前 → 学会
- 2016年10月1日以降 → 著者

出典: 日本細胞生物学会「Cell Structure and Function」誌の投稿規程 <http://www.jscb.gr.jp/csf/en/instructions-to-authors/>

本日の内容

1. J-STAGE掲載誌の質向上に向けた取り組みと
ジャーナルコンサルティングについて

2. オープンアクセスの概要
～質疑応答～

3. CCライセンスの概要と設定
～質疑応答・休憩～

4. DOAJの概要と収録申請
～質疑応答～

5. ジャーナルの評価と課題への取り組み
～質疑応答～

DOAJ (Directory of Open Access Journals) について

- Infrastructure Services for Open Access (IS4OA)が運営する
オープンアクセス誌のオンライン・ディレクトリ・サービス
- 国際的に認知された基準を満たす、高品質の学術ジャーナル及びその記事のメタデータを、言語や地域、分野を問わず収録
- 収録ジャーナルの認知度、アクセシビリティ、評判、利用を高めることが目的
- ジャーナルの収録申請は無料
- コンテンツの検索、その他サービスを利用するための登録や費用は不要

(2022年9月27日時点)

DOAJ収録数	うち 出版国＝日本	うち J-STAGE登載誌	うち ジャーナル コンサルによる
18,285 誌 7,993,385記事	78 誌	50 誌	26 誌

DOAJに掲載されているJ-STAGE登載誌

発行機関	ジャーナル名
日本機械学会	Mechanical Engineering Journal
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery編集委員会	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery
電気化学会	Electrochemistry
日本脳神経外科学会	Neurologia Medico-Chirurgica
日本血管外科学会	日本血管外科学会雑誌
日本脳神経血管内治療学会	脳血管内治療
日本脳神経血管内治療学会	Journal of Neuroendovascular Therapy
日本トライボロジー学会	Tribology Online
日本油化学会	Journal of Oleo Science
日本家禽学会	The Journal of Poultry Science
日本鉄鋼協会	ISIJ International
日本繁殖生物学会	The Journal of Reproduction and Development
日本リンパ網内系学会	Journal of Clinical and Experimental Hematopathology
日本遺伝学会	Genes & Genetic Systems
東京女子医科大学学会	Tokyo Women's Medical University Journal
グローバルビジネスリサーチセンター	Annals of Business Administrative Science
順天堂医学会	順天堂醫事雑誌
日本体力医学会	Journal of Physical Fitness and Sports Medicine
日本産業衛生学会	Environmental and Occupational Health Practice
日本生体医工学会	Advanced Biomedical Engineering
日本水環境学会	Journal of Water and Environment Technology
藤田医科大学医学会	Fujita Medical Journal
日本農薬学会	Journal of Pesticide Science
日本気象学会	気象集誌. 第2輯
日本気象学会	SOLA

発行機関	ジャーナル名
日本生物物理学会	Biophysics and Physicobiology
日本大腸肛門病学会	Journal of the Anus, Rectum and Colon
ホソカワ粉体工学振興財団	KONA Powder and Particle Journal
日本表面真空学会	e-Journal of Surface Science and Nanotechnology
日本脊椎脊髄病学会	Spine Surgery and Related Research
水文・水資源学会/日本地下水学会/日本水文科学会/陸水物理研究会	Hydrological Research Letters
日本細胞生物学会	Cell Structure and Function
日本疫学会	Journal of Epidemiology
日本平滑筋学会	Journal of Smooth Muscle Research
日本静脈学会	静脈学
日本機械学会	Journal of Fluid Science and Technology
Annals of Vascular Diseases編集委員会	Annals of Vascular Diseases
日本機械学会	The Journal of Thermal Science and Technology
日本機械学会	Journal of Biomechanical Science and Engineering
日本機械学会	Journal of Advanced Mechanical Design, Systems and Manufacturing
日本臨床疫学会	Annals of Clinical Epidemiology
日本機械学会	日本機械学会論文集
資源・素材学会	Journal of MMIJ
日本鉄鋼協会	鉄と鋼
日本小児腎臓病学会	日本小児腎臓病学会雑誌
自動車技術会	International Journal of Automotive Engineering
日本生態学会	保全生態学研究
日本磁気共鳴医学会	Magnetic Resonance in Medical Sciences
NPO法人災害看護推進会	Health Emergency and Disaster Nursing
日本マーケティング学会	マーケティングジャーナル

(2022年9月27日時点)

DOAJが注目される背景：ハゲタカジャーナル問題

- ハゲタカジャーナル…掲載料（APC）目当ての悪質性の高いOAジャーナル
 - 編集体制、査読の実施期間/方法等が不透明で、学術雑誌としての機能を果たしていない
 - 公的資金が詐取されている、科学的に正しくない主張の流布、人事評価への悪影響といった問題があり、研究者や研究機関、ひいては学術全体への信頼を脅かす恐れがある
 - 毎日新聞の報道（2018年9月3日）
「粗悪学術誌 論文投稿、日本5000本超 業績水増しか」
 - 各大学がハゲタカジャーナルへの投稿を防止する取り組みを開始



- DOAJは、ハゲタカでないOAジャーナルを証明する“ホワイトリスト”
 - 国内の多くの大学図書館は、論文投稿先のチェックリストとして、DOAJを出版倫理委員会（COPE）、OA学術出版社協会（OASPA）とともに推奨
 - cOAlition Sは、Plan Sガイダンス改訂版でDOAJをパートナーとして明記
 - Web of Science、ScopusはDOAJ収録誌をゴールドOAと認定

DOAJ トップページ

DOAJ OPEN GLOBAL TRUSTED SUPPORT APPLY SEARCH

SEARCH DOCUMENTATION ABOUT

ジャーナル検索ページへ

DOAJ収録申請ページへ

DASHBOARD LOGOUT

DIRECTORY OF OPEN ACCESS JOURNALS

Find open access journals & articles.

Journals Articles

In all fields SEARCH

収録状況

80 LANGUAGES	130 COUNTRIES REPRESENTED	12,639 JOURNALS WITHOUT APCs	18,288 JOURNALS	7,993,398 ARTICLE RECORDS
-----------------	---------------------------------	------------------------------------	--------------------	------------------------------



(出典: <https://doaj.org/>)

DOAJ 検索ページ (Journals)

The screenshot shows the DOAJ Journals search interface. At the top left is the DOAJ logo with the text 'OPEN GLOBAL TRUSTED'. Navigation links include 'SEARCH', 'DOCUMENTATION', and 'ABOUT'. A search bar contains the text 'japan' and a dropdown menu is set to 'Country of publisher'. A 'SHARE OR EMBED' button is visible. On the right side, there are links for 'APPLY', 'SEARCH', 'DASHBOARD', and 'LOGOUT'. The main content area displays '78 indexed journals' and a 'Refine search results' section. This section includes checkboxes for 'With a DOAJ Seal' and 'Without article processing charges (APCs)', a 'SUBJECTS' dropdown, a 'LANGUAGES' dropdown, and a 'LICENSES' dropdown. The 'LICENSES' dropdown is highlighted with a red box and contains the following list: CC BY (31), CC BY-NC (6), CC BY-NC-ND (26), CC BY-NC-SA (9), CC BY-ND (4), CC BY-SA (1), and Publisher's own license (10). A blue callout box at the top right provides a summary of the license distribution for the 78 indexed journals. Another blue callout box points to the search results, and a third blue callout box points to the 'LICENSES' dropdown.

参考: DOAJ収録誌全体の内訳
CCライセンス (99%)

- CC BY (44%)
- CC BY-SA (7%)
- CC BY-ND (1%)
- CC BY-NC (17%)
- CC BY-NC-SA (9%)
- CC BY-NC-ND (20%)
- CC0 (1%)
- Publisher's own license (1%)

Japanで検索
→78ジャーナル
収録中
(2022年9月27日時点)

78 indexed journals

日本の78ジャーナルの
CCライセンス内訳

(出典: <https://doaj.org/>)

DOAJ ジャーナル紹介ページ

Journal of Epidemiology

0917-5040 (PRINT) / 1349-9092 (ONLINE)

DOAJ Seal

Website

DOAJシール

ベストプラクティスを忠実に守っているOAジャーナルに与えられるシール

・記事のメタデータを提供している場合に表示される
・全文は、公開サイトまたは全文PDFにリンク

About Articles

PUBLISHING WITH THIS JOURNAL

The journal charges **120000 JPY** as **publication fees** (article processing charges or APCs)

There is a [waiver policy](#) for these charges.

Look up the journal's:

- [Aims & scope](#)
- [Instructions for authors](#)
- [Editorial Board](#)
- [Blind peer review](#)

Expect on average 32 weeks from submission to publication.

BEST PRACTICE

This journal uses a **CC BY** license.



→ Look up their [open access statement](#) and their [license terms](#).

The author **retains unrestricted** copyrights and publishing rights.

→ Learn more about their [copyright policy](#).

Articles digitally archived in:

- **PMC**

→ Find out about their [archiving policy](#).

JOURNAL METADATA

Publisher **Japan Epidemiological Society**

Society or institution **Japan Epidemiological Society**

Manuscripts accepted in **English**

LCC subjects **Medicine: Medicine**

Keywords

disease surveillance

preventive medicine

public health

epidemiology

nutrition

The screenshot shows the DOAJ interface for the Journal of Epidemiology. It includes the journal title, ISSN, DOAJ Seal, and Website buttons. Below, there are sections for 'About', 'Articles', and '455 indexed articles'. A search bar is visible with 'Added to DOAJ (newest first)' selected. The article details section shows the title 'Changes in Psychological Distress During the COVID-19 Pandemic in Japan: A Longitudinal Study' and lists authors like Hiroyuki Kikuchi, Masaki Machida, Itaru Nakamura, Reiko Salto, Yoko Odagiri, Takako Kojima, Hidehiro Watanabe, Keisuke Fukui, and Shigeru Inoue. It also lists keywords: 'M, novel coronavirus, mental health, general population'.

学会ジャーナルサイトへのリンク

(出典: <https://doaj.org/>)

DOAJ収録申請に求められる基本要件

1. 研究者や専門家を対象とする学術論文を年間に少なくとも5本掲載
(新規創刊、新規OA転換誌は1年以上の発行歴または論文10本以上掲載)
2. 著作権保持者がライセンスにより他者に使用権を付与することで、すべてのコンテンツの全文が遅滞なく無料で利用できる
3. どこからでもアクセスできる、専用のURLをもつWebサイト
 - 明確でナビゲートしやすい
 - 各記事は個別の全文記事として、記事ごとに1つのURLをもつ
 - オープンアクセスポリシー、Aims & Scope、編集委員会、投稿規程、編集プロセス、ライセンス条項、著作権規定、課金情報、問い合わせ先が記載
4. ISSN(International Standard Serial Number)をもつ
5. 編集者と編集委員会、すべての記事は公開前にピアレビューを通過
6. コンテンツの使用および再利用に関するライセンス(CCライセンスを推奨)
7. ライセンス条項およびオープンアクセスポリシーと矛盾しない著作権規定

(出典: <https://doaj.org/apply/guide/#basic-criteria-for-inclusion>)

上記基本要件に加えて

「学術出版における透明性とベストプラクティスの原則」(次頁)を遵守していることが必要
(Principles of Transparency and Best Practice in Scholarly Publishing)

学術出版における透明性とベストプラクティスの原則

DOAJ、COPE、OASPA、医学編集者世界協会(WAME)の共著で、各団体入会時の審査基準として利用

1. ジャーナル名

一意性があり、他ジャーナルと混同されにくいこと

2. Webサイト

高い倫理性と専門性、セキュリティを有すること

3. 出版スケジュール

ジャーナルの出版周期を明記すること

4. アーカイブ

ジャーナルが公開されなくなった場合の保存とバックアップ計画を明記すること

※J-STAGE掲載誌はJ-STAGE経由でPorticoにアーカイブされる

5. 著作権

著作権方針を著者ガイドラインに明記しWebサイトで公開すること、著作権者を全ての記事に明記すること

6. ライセンス

ライセンス情報をWeb上の著者ガイドラインに明記し全ての記事(PDFおよびHTML)に表示すること。オープンアクセスコンテンツにはオープンライセンスを使用すること。

7. 出版倫理と関連する編集方針

出版倫理方針および研究不正防止と発生時の合理的措置をWebサイトに明記すること

8. ピアレビュープロセス

ピアレビュープロセスやポリシーをWebサイトに明記し、全ての論文に出版日を明記すること。

9. アクセス

ジャーナルと記事へのアクセス方法を明記すること

10. 所有権とマネジメント

ジャーナルの所有権者をWebサイトに明記すること

11. アドバイザリー組織

対象分野の専門家からなる編集委員会を有しWebサイトに最新のリストを明記すること

12. 編集体制/連絡体制

編集者氏名や編集事務所の所在地を含む連絡先情報をWebサイトに明記すること

13. 著者費用

原稿提出前に容易にわかるようにWebサイトに明記すること。また費用免除が可能な場合はその情報を明記すること。

14. その他の収入源

収入源をWebサイトに明記すること

15. 広告

広告が編集上の意思決定に関連せず、コンテンツと区別されていること

16. ダイレクト・マーケティング

原稿勧誘を含むダイレクト・マーケティング活動が適切に行われ、提供する情報が読者や著者の誤解を招くものでないこと

(出典: <https://doaj.org/bestpractice>)

DOAJ収録の申請

1. 申請前に確認すること

- ① 前述のDOAJ収録の基本要件を満たしているか
- ② 「**学術出版における透明性とベストプラクティスの原則**」に従っているか
- ③ **ジャーナル収録申請フォーム** (<https://doaj.org/apply/>) を参照のうえ、収録申請に必要な情報を事前に準備する

2. 申請と審査

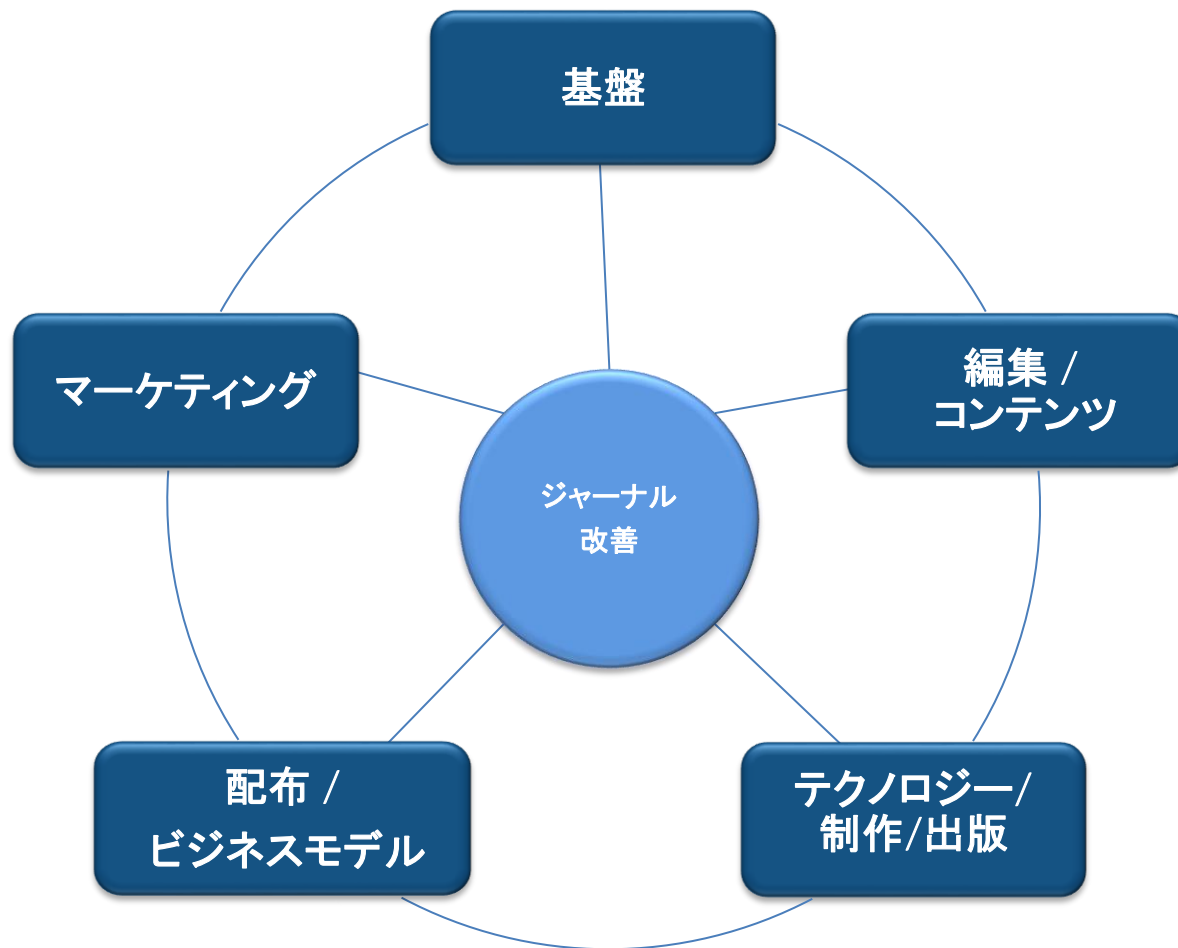
- ① オンラインで申請 (<https://doaj.org/apply/>)
 - ・ 申請フォームの内容はジャーナルサイト上の情報と一致させる
 - ・ 情報に不正確なものがある場合は、却下
 - ※ 申請書が却下された場合は、**通常6ヶ月間は再申請が不可**
- ② 審査…DOAJの編集委員長、編集者、共同編集者によって実施
 - ・ **最長6ヶ月で審査終了**

※ 申請に関する詳細は「Guide to Applying (<https://doaj.org/apply/guide/>)」をご参照ください

本日の内容

1. J-STAGE登載誌の質向上に向けた取り組みと
ジャーナルコンサルティングについて
2. オープンアクセスの概要
～質疑応答～
3. CCライセンスの概要と設定
～質疑応答・休憩～
4. DOAJの概要と収録申請
～質疑応答～
5. **ジャーナルの評価と課題への取り組み**
～質疑応答～

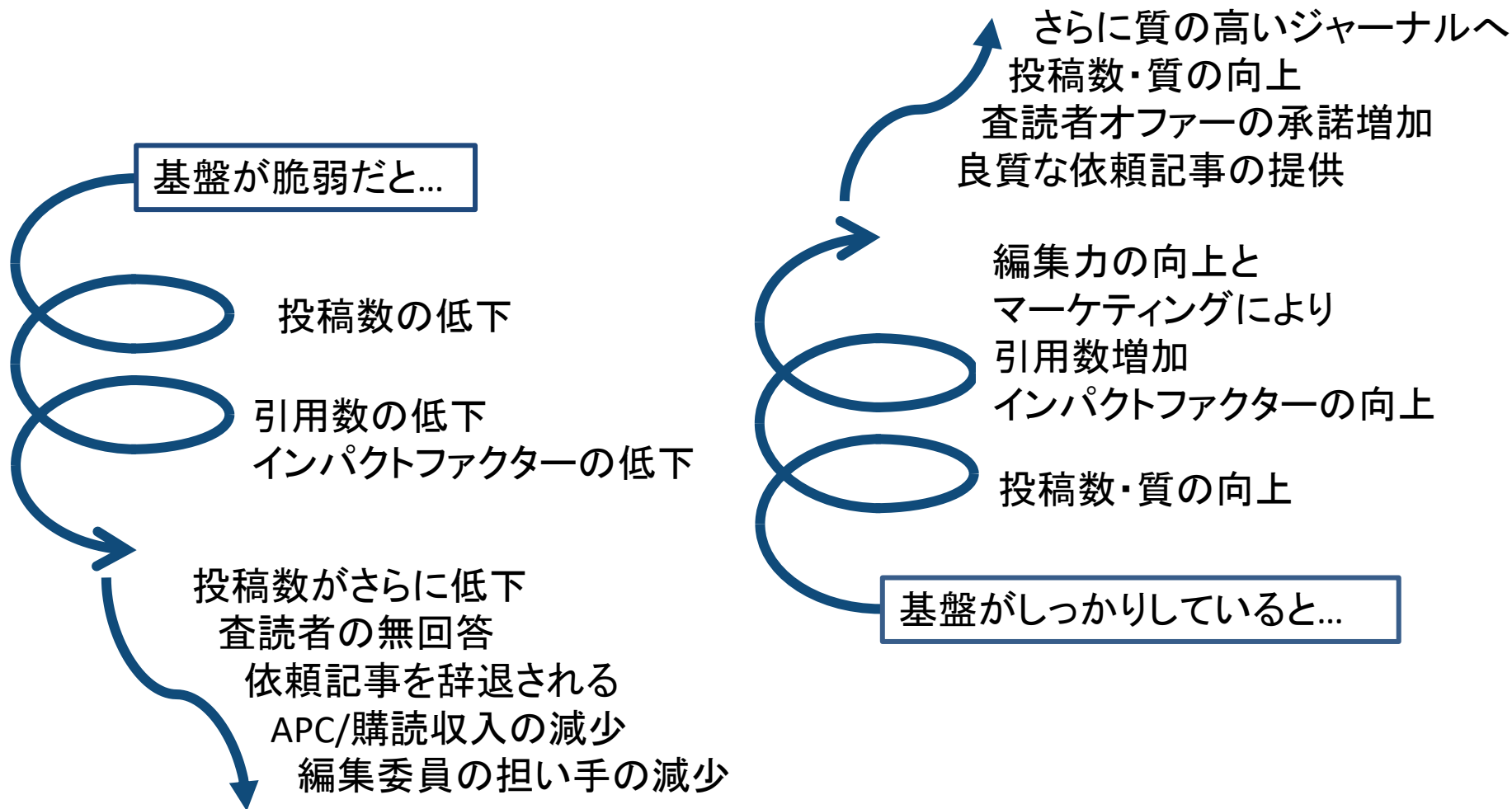
ジャーナル出版を構成する要素



自誌の構成要素に関する分析(例)

基盤	編集 / コンテンツ	配布 / ビジネスモデル	テクノロジー制作 / 出版	マーケティング
広く理解されているジャーナル戦略、Aims & Scopeが明確 ✓	投稿数(資料種別ごと、国別、依頼記事) ✗	オープンアクセス ✗	JATS XMLファースト、その後にPDF、メタデータのオープン化 ✗	マーケティングプラン ✗
投稿規程等に含まれる包括的なジャーナル方針 ✗	掲載論文の数と質 特別号およびセクションの数 ✗	総収入、主な財源 ✓	DOI、ORCID等との連携 ✓	ソーシャルメディア、会議(大会)、パンフレット ✗
編集委員会の構成および機能 ✗	採択率 ✗	損益 ✓	ユーザーフレンドリーなプラットフォーム ✓	著者の満足度 ✓
優れたジャーナル Webサイト ✗	インパクトファクター / ランキング ✗	首尾一貫した著作権方針 ✗	ジャーナルWebサイト ✗	編集委員会活動 ✗
ジャーナル改善計画 ✗	ターンアラウンドタイム ✓	DOAJ / Plan Sの要件に準拠 ✗	DOAJ / COPE / Plan Sの技術要件に準拠 ✗	ブランディング ✓

ジャーナルの改善スパイラル



オープンアクセス関連資料

J-STAGE Webサイトの「オープンアクセス関連資料」のページにて、オープンアクセスに関する資料をご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/InformationForSocieties/TAB5/-char/ja>

The screenshot displays the J-STAGE website interface. At the top, there is a navigation bar with the J-STAGE logo and various menu items like '資料・記事を探す', 'J-STAGEについて', 'ニュース&PR', and 'サポート'. A search bar is also present. Below the navigation bar, there is a large banner image with a red box highlighting the 'J-STAGE登録機関用コンテンツ' (J-STAGE Registered Institution Content) menu item. The main content area is titled 'J-STAGE登録機関用コンテンツ' and features a sub-menu with '各種届出書', 'Similarity Check(IJ CrossCheck)について', '投稿審査システムユーザーページ', and 'オープンアクセス関連資料'. The 'オープンアクセス関連資料' (Open Access Related Information) section is expanded, showing a list of resources:

- オープンアクセス関連資料**
 - J-STAGEは、記事への無料アクセスと二次利用範囲の明記による「オープンアクセス」を推進しています。J-STAGEが提供するオープンアクセスに関する資料を、下記リンクより利用できます。
- ジャーナルコンサルティング関連資料**
 - New** 2020年度ジャーナルコンサルティング報告書
2020年度J-STAGEジャーナルコンサルティング報告書 ~DOAJ取載に向けたジャーナル改善~ (PDF; 1,544KB)
 - 2020年度ジャーナルコンサルティング ミニセミナーより
発表資料(PDF; 2,698KB)
開催報告書(PDF; 1,141KB)
質疑応答まとめ(PDF; 686KB)
- オープンアクセスガイド**
 - 『J-STAGE登録ジャーナルのためのオープンアクセスガイド』(PDF; 654KB)
- DOAJ (Directory of Open Access Journals) 翻訳資料**
 - 『出版者向け情報』(PDF; 635KB)
原文: Information for Publishers (外部サイト) [🔗](#)
 - 『学術出版における透明性とベストプラクティスの原則』(PDF; 334KB)
原文: Principles of Transparency and Best Practice in Scholarly Publishing (外部サイト) [🔗](#)

参考資料

1. cOAlition S: “About Plan S” <https://www.scienceeurope.org/coalition-s/>
2. 独立行政法人 日本学術振興会 “論文のオープンアクセス化に関する実施方針”
https://www.jsps.go.jp/data/Open_access.pdf
3. 国立研究開発法人科学技術振興機構 “オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針” https://www.jst.go.jp/pr/intro/openscience/policy_openscience.pdf
4. クリエイティブ・コモンズ・ジャパン “FAQ 良くある質問と回答” <https://creativecommons.jp/faq/>
5. 毎日新聞、2018年9月3日“粗悪学術誌 論文投稿、日本5000本超 業績水増しか”
<https://mainichi.jp/articles/20180903/ddm/041/040/074000c>
6. 京都大学 “論文投稿の際は 粗悪学術誌 ハゲタカジャーナル にご注意ください”
https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/uploads/20190117_predatoryjournals_warning.pdf
7. 早稲田大学 “粗悪学術誌・出版社 (Predatory Journals/Publishers) への論文投稿に関する注意喚起について”
<https://www.waseda.jp/inst/ore/news/2019/03/29/1902/>
8. 学協会著作権ポリシーデータベース “Society Copyright Policies in Japan(SCPJ)”
<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>
9. 日本水環境学会 “[Journal of Water and Environment Technology, Instruction to Authors](https://www.jswe.or.jp/eng/publications/instructions/index.html)”
<https://www.jswe.or.jp/eng/publications/instructions/index.html>
10. 日本細胞生物学会 “Cell Structure and Functionのジャーナルサイト” <http://www.jscb.gr.jp/csf/en/>

問い合わせ

◆ ジャーナルコンサルティングに関する問い合わせ

問合せ先: ジャーナルコンサルティングチーム

メールアドレス: jstage-gakkai@jst.go.jp

◆ J-STAGEの操作に関する問い合わせ

(オープンアクセス表示設定、CCライセンス表示設定など)

問合せ先: J-STAGEセンター

メールアドレス: center@jstage.jst.go.jp